

第4回地球内部専門部会

IODP 科学立案評価パネル地球内部部会会議事前打ち合わせ 議事次第

日時：2004年10月13日（水）13:00-17:00

場所：海洋研究開発機構東京事務所

出席者（敬称略）：

地球内部専門部会長：荒井章司（金沢大学；ISSEP 委員 co-chair），地球内部専門部会委員：阿部なつ江（JAMSTEC），海野進（静岡大；ISSEP 委員），小原泰彦（海上保安庁；ISSEP 委員），望月公廣（東京大），山崎俊嗣（産総研；ISSEP 委員），山野誠（東京大；ISSEP 委員），道林克禎（静岡大）

科学立案評価パネル委員：小川勇二郎（筑波大；ISSEP 委員），廣野哲朗（JAMSTEC；ISSEP 委員）

オブザーバー：巽好幸（SPC 委員；コンソーシアム IODP 部会執行部），黒木一志・坂本泉（以上 JAMSTEC/CDEX），事務局（AESTO）：山川稔

議事次第（案）

報告事項：

- SSEPs 報告（グラナダ）
 - ◇ 3つのWGを作って議論を行った。そのうち一つのWGでは，SSEPsのchairに関しておよび委員の交代について議論が行われた。
 - ◇ 日米2人ずつの4人 3人（日，米，欧） 任期2・3年
 - ◇ ISSEP, ESSEP で3人：候補は必ず SSEPsの委員から選出すること
 - ◇ 沖縄で ISSEP co-chair の一人（米）が引退するので次期 co-chair を選出。
 - ◇ 荒井氏は上海（2005年5月）で2年の任期が満了するが，引き続きその次の会議まで議長を勤める予定。
- SPC 報告（巽委員）
 - ◇ ランキング報告
 - ◇ SASの構造改革
 - 10月レポート提出時点で SAS 構造について意見 SPOC で議論
 - たとえば，プロポーザルの review 形式について
- 日本側 巽，伊藤（地球内部）から 北里，野村律夫氏へ交代
- 今後の交代で日本側からも地球内部研究者を出す

- SSEPsのWGからSPCへ上げた案一つ（下記）が差し戻された
「特別な理由がない限り初めての proposal は Pre proposal として提出する」という案は，反対にあって議論差し戻し。次回 SSEPs で議論する。

- 航海報告
 - ◇ Exp. 301: Juan de Fuca Ridge :
 - ◇ Exp. 302: ACEX

対応者が居ないため報告なし

- ◇ Exp. 301 での機器 (UBI) の不調についての報告 (小原):
 - third party の機器なので保証あり
 - ラブ C (logging while coring) は高額すぎて 304 では使えない.
 - 機器の不調等の対応についての意見:
 - 機器開発等テクニカルなテーマは back up (代替案) を Co-chief が用意する必要があるのでは.
 - ランキングの時点でプロポーザルを慎重に審議する必要あり

- その他
 - ◇ 乗船研究者:
 - 304/305 日本側乗船者枠を満たしていない (22,3 人/航海)
 - アジア各国との共同で乗船研究者を出していく
 - アジアの IODP 推進機関と J-DESC との協議で, 又は個人的にコンタクトでも良い. 条件は, 日本の研究機関に所属のこと (学生の旅費に関しては未定)

 - ◇ 航海前会合:
 - 304/305 学生・初心者が多いため会合を行う
 - 今後このような事前・事後打ち合わせを行うための予算を確保する必要あり.

 - ◇ 高知コアセンターの現状
 - 位置づけとしては, 共同利用施設: 高知大が主体で CDEX がサポート
 - 共同利用委員会 (高知大, 2 名; JAMSTEC, 2 名; J-DESC, 2 名) へ, 利用申請書を提出, 審査を受ける. 期間は今年度は決まっていない. 随時受け付け
 - IFREE から研究者常駐し, マリンワーク等からの派遣で機械の立ち上げ中
 - NSCL 機械の使い方マニュアル作成, 薬品等使用消耗品などに対応
 - 共同利用機器: 高知大 HP に共同利用申し込み, 機器などに関しては, contact person (CDEX) に随時問い合わせる: 機器の立ち上げ状況も 2・3 ヶ月おきに up date されている.
 - オペレーションは各自で (技官は居ない): 高知大, CDEX などの研究者, テクニシャンが対応する機器あり.
 - 利用情報は高知大学の HP に up されている.
 - 申請時点で最も知りたい情報は, 各自の研究計画
 - 旅費はない. 宿泊施設の利用は難しい. まわりにホテルを利用されたし.
 - プロポーザルベース. Out put duty: 報告書, 謝辞にかくこと (HP)

 - ◇ キャンペーンに関して
 - 大学 (乗船研究者等の募集), 博物館 (out reach)
 - メンバーが固定しているので, 手分けして.
 - 効果は? 予算は取れていない. 普及広報 (科学館など) はあり

- 乗船研究者：out reach マスコミ発表等を積極的に行って欲しい。
- 説明要員の、場所のお願い（巽，阿部）
- 講演等のコンテンツは巽か阿部に問い合わせてもらえれば ppt ファイルあり 必要に応じて使用可。
- 場所は受け身か？働きかけか？ 両方

➤ 審議事項

SSEPs 委員，SPC 委員の交代について

- ◇ SSEPs は公募をかけた。
- ◇ 次回は山野さんと大河内さん
 - co-chair 候補となる人に委員になってもらう必要もあり
- ◇ SSEPs co-chair の交代：荒井氏は来年の秋まで
- ◇ 候補は委員の中から。J-DESC で候補がいたら，委員になってもらう必要あり。
- ◇ 米国側が I E I と交代で候補を出してほしい（海野）
 - 次回提案することで合議
- Biosphere の候補はないのか？ I, E, B のバランスが必要。
 - ◇ Biosphere と深部（ライザー）掘削のプロポーザルが必要
- 現在：E1/2 (50%); I 1/2 (28%); B+fluid1/4 (22%)
 - ◇ パネルメンバーの構成を含めて今後考慮すべき

次回 SSEPs への対応について（沖縄 11 月）

- 初参加の廣野氏：仕事内容の確認
- プロポーザルはまだ送られていない
- 前回差し戻しになった議論
 - ◇ 選挙について

Co-chief 候補の推薦

- OPCOM から SPC へ複数（3，4人以上の）co-chief 候補を推薦し，最終的に IO が決める。（lead proponent から一人，それとのコンビネーションでもう一人が決まる）
- 日本からの co-chief 候補として，以下の方々の名前が挙がった。
 - ◇ 522 Superfast spreading crust：海野，宮下，前田，小澤
 - ◇ 603 NanTroSEIZE：I. 芦，徐，氏家；II. 木下，後藤，荒木

SAS ストラクチャーについて（12 月の SPOC で決まる）

- 外部 Review に関する意見
 - ◇ SSEPs 委員の数を減らして，プロポーザルを（雑誌のように）外部審査へ回す：コミュニティーの拡大の意味もあり。
 - ◇ 外部審査から戻ったときに，プロポーザルの改善点等は SSEPs 委員が行うとなると，今までと仕事量は減らないのでは？
 - ◇ 人数は多いが，SSEPs 委員としての縛りによって，顔をつきあわせて行うことには意味がある。

- ◇ 委員の仕事を大学の教育・仕事を還元できれば意味がある．大学教員からの出席は大変．見返りが無い,,, が還元はできると思う．
- ◇ 外部 reviewer に対する不信感（期日を守らない,,, 等々）
- ◇ consistence が保たれるかどうか？SSEPs できえ毎回変わると批判がある．

関連分野への IODP の周知，プロポーザル・乗船研究者の掘り起こしと活性化について．とくにプロポーザル提案数の増加について

- 宣伝が重要：
 - ◇ 航海の成果．合同学会等でセッションを設ける．
 - ◇ 乗船者の経験を話す場を設ける．
 - 合同学会での1つのスペシャルセッション（掘削科学 IODP, ICDP）を提案．プロポーザルについてのテーマも発表してほしい
 - ◇ CDP：NanTro（コスタリカを含めた地震発生帯）, Ontong Java, IBM, Indas Fan（以上 IFREE 内で議論）, Sea of Japan（宮下, 荒井）など, 種を（この専門部会で）探す．
 - どこの機関がリーダーシップを取るか, 専門部会が中心になって議論する．
- CDP は bottom up では走らない トップダウンで（次回 SPOC で提案：異）
- PSG（ライザーの場合）: サイエントリストと CDEX エンジニアで共同で技術開発．(黒木)
- 「ちきゅう」慣熟航海後（2006 年後半）から, NanTro の後, 2年後のターゲットを早く決める必要あり．

IODP 活動予算について

- 乗船旅費は CDEX 予算から（当面）．
 - ◇ 応募制
 - ◇ J-DESC へ申請書を提出して審査（JAMSTEC の規定に基づき）
 - ◇ 分野細目等含めた申請書が乗船研究者へ送られている．
 - ◇ 学生は乗船期間は JAMSTEC に実習生として所属（DSR）．
- 必要経費は, 競争的資金としてすべてを獲得する必要あり．
- 科学研究費補助金・特定領域など
 - ◇ E. 白亜紀の変動（Ongtong-Java）などを12月1日特定領域へ申請する予定．
 - ◇ 地球内部部会でも特定領域のテーマを考える必要あり．
 - 特定領域の準備（シンポジウム開催等）に J-DESC 活動資金などを積極的に利用されたし．

科研費枠（海洋）は以前から働きかけている

その他

- コアセンターの利用に関して；JAMSTEC の研究者との共同研究を持ちかけて欲しい．